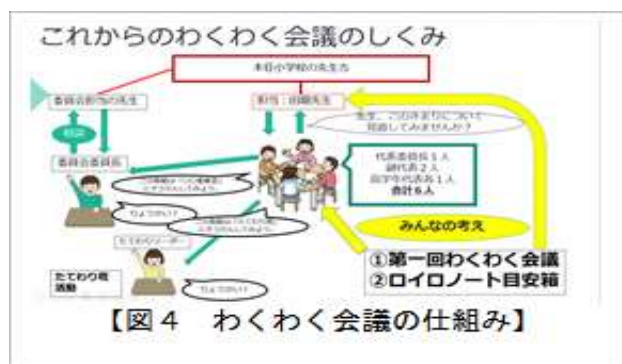


1学期の出来事より⑨ 「わくわく会議」での話し合い。

学校だより9号で、子どもたちの自治活動についての話題を取り上げました。先輩たちが自分たちで制定した「本荘っ子人権宣言」を見直して、課題を探っていったところまでをお伝えしました。この写真は、6月8日に実施された「わくわく会議」の様子です。



わくわく会議は、本校独自の事実活動の取組みです。子どもたち自身が、自分たちの身の回りの諸問題を自分たちの力で話し合いながら解決できるようにしています。他の学校では代表委員会という取組みがありますが、その本荘小版です。ただ、本校は小規模の学校なので、代表ではなく、4年生以上が全員参加して、話し合いを行うところが特長です。

この日のわくわく会議のテーマは、「『自信と信頼』を全ての人のもてるように」というものでした。本荘っ子人権宣言をもとにしたアンケートの結果からわかったことを、各グループで分析し、話し合っていました。アンケートの結果からは、以下のようなことが明らかになりました。いくつか、例をあげます。(裏面に続きます)

例1【1】本荘小は友だちの気持ちを考え、いやがることを言わない学校ですか？	
という設問に関しては、	
・みんなお互いの気持ちを考えていやがることを言わない	59%
・みんなは気持ちを考えているけれど、自分は考えきれていない	35%
・みんなは気持ちを考えていないけれど、自分は考えている	4%
・だれもお互いの気持ちは考えないし、いやなことを言う	2%

例2【5】もめごとは……

・おこらない	16%
・おこったときは子どもだけで笑顔で解決できる	23%
・おこったときは先生のを借りると解決できる	11%
・解決できない	1%

とこのように、大半は肯定的な回答が多いのですが、少数ですが、マイナスの回答もあります。でも、それは事実なのです。そういう思いをしている子どももいるのです。

こういったデータをもとに、各縦割り班グループで話し合っていました。

その結果、「今の自分に自信がない」とか、「人から信頼を受けることができるようになるには、どうしたらいいのか」という切実な意見や課題意識が浮かび上がってきたのです。そして、その事実をどうしていくべきか？ということが、今後の課題となりました。このわくわく会議には、当然担任



の先生方も同席します。子どもたちの話し合いがスムーズにいくように、助言などを行うのですが、基本、子どもたちに徹底的に話し合いをさせます。簡単に、指導的な助言などをしていません。大事なことは、子どもたちが課題意識もって、真剣に自分たちの学校をよくしていこうと自治活動をしていくことだからです。最後にまとめられた板書の写真も載せていますが、本荘小の子どもたちは、ここまでできるのだということを、改めて感じました。先生方の努力のおかげで、令和3年度に、私が赴任してきた時よりも子どもたちの自治の意識は向上してきていると思っています。

このような学校で生活の中で、子どもたちが育つということを私たち大人はもっと重要視しなければいけません。これからの社会は、大きな変化が予想されます。それは、AIの発達によるものもあるでしょう。自然災害の脅威もあるでしょう。だから、持続可能な社会の創り手としての資質・能力が必要となるのです。国同士の争いも回避できるかも身につけなければなりません。私たち大人は、そういった次世代の人材を育てなければならないのです。これから、このわくわく会議の取組みを続ける中で、子どもたちがどのように成長していくのか、どのように力をつけていくのか、校長として、とても楽しみです。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「わくわく会議の板書」



わくわく会議の結果は、このような感じになりました。びっしりと書き込まれた黒板に、子どもたちの話し合いの質を感じます。

内容を確認している6年生の姿からも真剣さを感じますね。